操作マニュアル v0.1.6

AIトレーサー なぞり君

元絵を読む → ペンで線を描く → カラー原稿の色を塗る → 結果を保存する。ブラウザーでその工程を見られます。原稿の画像処理に生成AI・APIキーは不要です。

公開アプリを開く

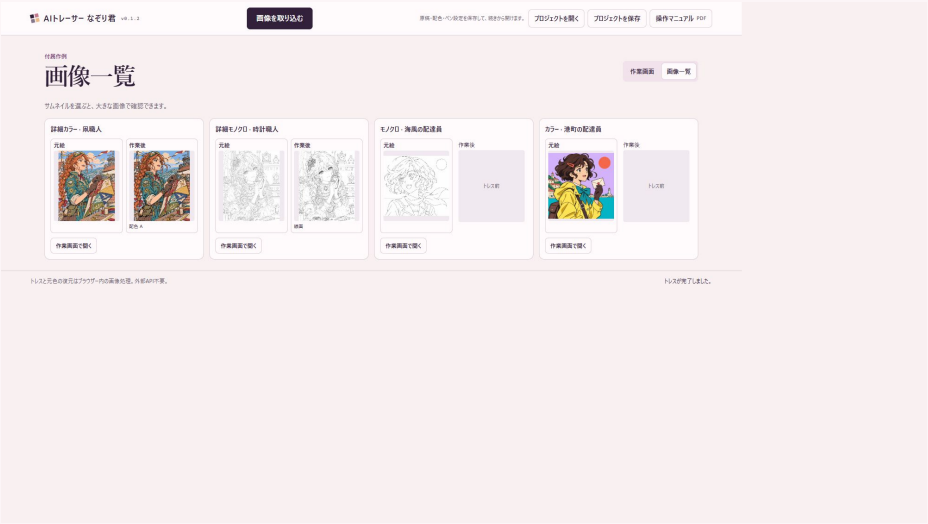
Windowsでバッチ起動する

Node.js 22.15以降を入れ、GitHubのソースZIPをすべて展開します。展開先の start_nazori.bat をダブルクリックすると、公式版の確認後にブラウザーとローカルMCPが起動します。更新できないときも手元の版を使えます。終了は起動ウィンドウで Ctrl+C です。

Windows向けZIPをダウンロード

最初の一枚

起動時のカラー作例「凧職人」で「トレスする」を押します。白黒の作例は「画像一覧」で「時計職人」を選び、「作業画面で開く」を押します。手持ちの画像は上部の「画像を取り込む」からPNG・JPEG・WebPを選びます。複数枚も読み込めます。



画像一覧で元絵と作業後を確認。サムネイルを押すと画像プレビューを開きます。

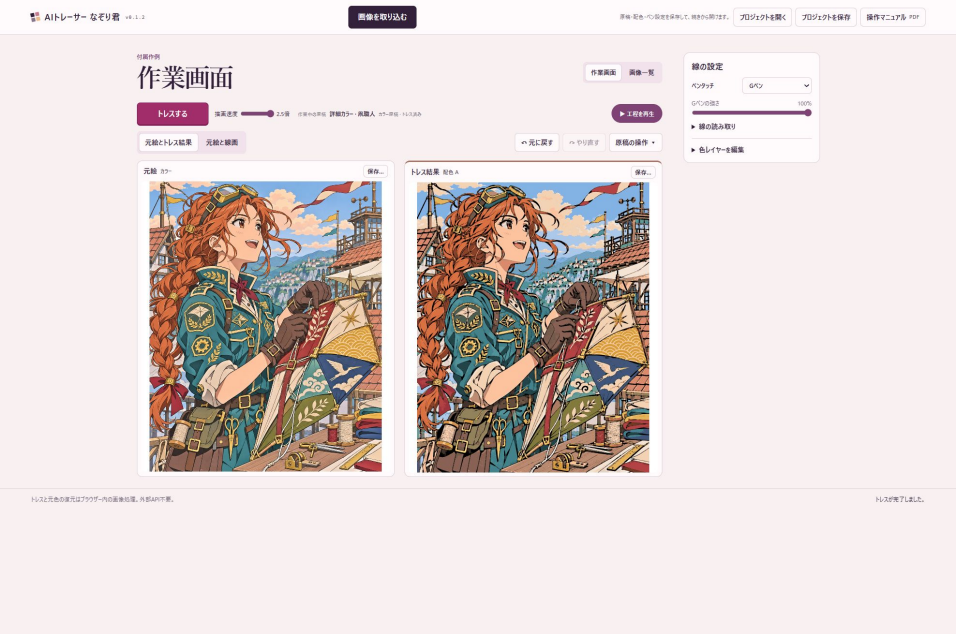
このマニュアルの内容

2 原稿とペンタッチ／3 描画の再生と色の調整／4 書き出し／5 作業の再開・API設定・MCP

原稿を選んでトレスする

カラー原稿と白黒原稿

カラー原稿では、ペン入れの後に筆へ切り替わり、元絵から拾った色を塗ります。白黒原稿は線画まで進みます。処理が終わると、元絵と作業後の絵が横に並びます。



カラー作例「凧職人」。左は元絵、右は元絵の色を使ったトレス結果。

線の設定

「ペンタッチ」でGペン・丸ペン・筆ペン・輪郭そのままを切り替えます。Gペンを使うときは「Gペンの強さ」で線の入り抜きや太さの差を調整します。白黒で淡い線を拾うには「線の読み取り」の「濃さのしきい値」を調整して、トレスし直します。

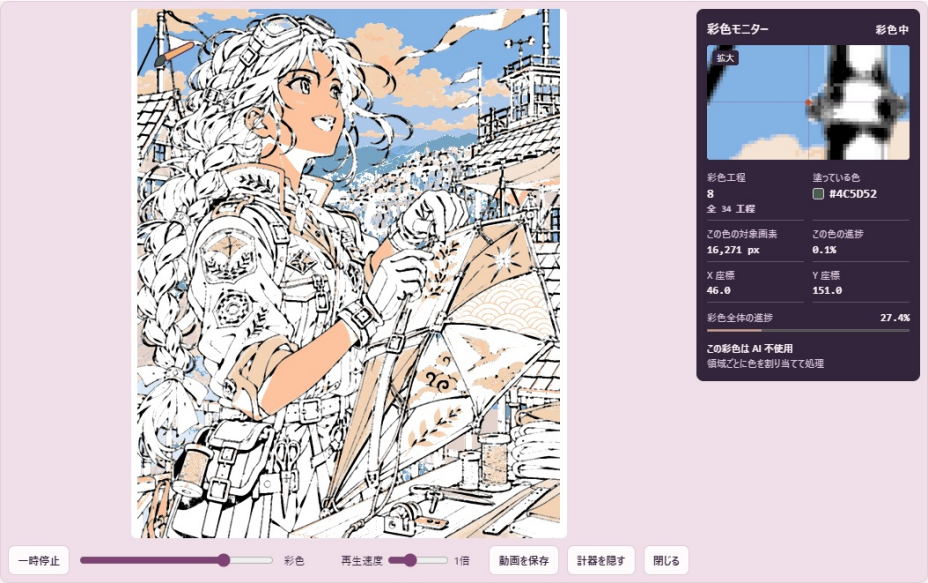
ペン先と筆先の動きを見る

工程をもう一度見る

「工程を再生」で最初から見られます。「一時停止」と再生位置のスライダーで工程の途中へ移動できます。「描画速度」はトレス時、「再生速度」は再生時の速さです。「動画を保存」は対応ブラウザーで工程をWebMに書き出します。

トレスモニターと彩色モニター

ペン先や筆先を拡大します。トレス中は座標、輪郭数、記録点数、推定線幅を表示します。彩色に入ると、色見本、対象画素数、この色と全体の進捗へ切り替わります。「計器を隠す」で折り畳めます。



彩色中は、拡大窓の中心が筆先を示します。

カラー結果の一色だけを変える

配色欄の色チップを開き、色を選んで「適用」を押します。同じ色レイヤーに入っている箇所が一緒に変わります。「配色 AとBを比べる」で二つの配色を見比べられます。「元に戻す」「やり直す」も使えます。

書き出し

画像の用途に合わせて保存する

「画像一覧」でサムネイルを選ぶか、絵の上の「保存…」を押します。画像プレビューで形式と保存サイズを選んで「保存」を押します。

元寸とプレビュー寸法

作業画面・WebMは原稿の比率を保ち、長辺1,600pxまでで再生します。大きな原稿は、保存サイズで「元寸」か「プレビュー寸法」を選べます。元寸では原本を読み直し、線と色を元の画素から処理します。

大きな原稿

元寸保存は1,600万画素以下が対象です。取り込みは3,200万画素、各辺8,192px、1枚24 MBまで。輪郭や色レイヤーが複雑で元寸処理の上限に達した場合は、プレビュー寸法を選びます。

PNG と PSD

PNGは完成した画像の表示や共有に使います。元絵の保存もPNGです。PSDはペン・色別・用紙のレイヤーを分けて保ち、Photoshopなどで編集するときに使います。

SVG と座標JSON

SVGは拡大やベクター編集用です。色面とペンの輪郭をパスとして保存します。座標JSON（nazori-coordinates/1）は描画の輪郭・再生順・色の割り当てを他のプログラムに渡す形式です。左上が原点で、単位はピクセルです。

プロジェクト・API設定・MCP

作業の再開と外部ツール連携

続きから開く

「プロジェクトを保存」で、原稿・配色・ペン・速度などをまとめます。元寸保存できる原稿は圧縮原本も入ります。上限は85 MBです。「プロジェクトを開く」で再開できます。「同じ設定で原稿を差し替え」で別原稿にもペン設定を使えます。

APIキー・外部サービス

トレス・色の復元・画像保存はブラウザー内の画像処理で完結します。APIキーや外部AIサービスの契約は不要です。ローカル起動では、作例とマニュアルも同梱ファイルから読み込みます。

MCPから処理する

Windowsではバッチの起動中、http://127.0.0.1:8000/mcp に接続できます。起動ウィンドウに表示された接続ファイルの token を認証ヘッダー Authorization: Bearer に設定します。トークンは共有せず、入出力は起動ウィンドウが示す専用フォルダーに置きます。

start_nazori.bat --mcp --workspace "<絶対パス>"

Windowsで標準入出力を使う場合は、このバッチをMCPクライアントに登録します。各OSで直接起動する場合は下のコマンドを使います。

node mcp.cjs --workspace <絶対パス>

nazori_trace_png の input に専用フォルダー内の相対パスで8ビット・ノンインターレースPNGを渡します。PNG・PSD・SVG・座標JSONは新規サブフォルダーへ保存されます。工程再生と色の編集はブラウザーで行います。

線が拾いにくいとき

輪郭が見える、線とベタ色がはっきりしたイラストが適しています。淡い線やグラデーションが多い原稿では、線が途切れたり、近い色が一つにまとまったりします。最初は付属作例で違いを確認してください。

GitHubで対応形式と技術報告を読む